

令和5年度 江戸川区立春江小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	・進んで学ぶ子 ・じょうぶな子 ・思いやりのある子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	笑顔とやる気やさしさあふれる学校 進んで学ぶ子、じょうぶな子、思いやりのある子 子供たちを愛し、子供たちを伸ばし、教育への情熱を燃やす教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞地域と連携した教育活動の実施 ＜課題＞○学力向上 ○教員の授業力向上 ○組織的学校の運営の充実		

教育委員会 重点課題	＜取組項目＞ ・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた 改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・外部委託による放課後補習教室を年間150日実施 パワーアップタイム(本校教員による補習教室)を年間35回実施 ・江戸川っ子スタディウィーク(各学期に1週間実施)における、ドリルパークへの取組 ・高学年において学期ごとに教科担任制の実施 ・東京ベースックドリルの実施 ・校内研究、春江塾による教員の指導力向上	・児童アンケートで「授業の内容がわかる」についての肯定的回答が90%以上 ・東京ベースックドリルの診断シートの平均正答率が前年度より上昇	B	C	・児童アンケートで90%の肯定的回答を得た。 ・放課後補習教室を計画的に実施している。パワーアップタイムでは、個に応じた指導を実施している。 ・朝学習や家庭学習などにおいて1週間ドリルパークに取り組み、既習内容、学習内容の定着を図った。 ・東京ベースックドリルの診断テストでは、各学年の既習事項の未定着の項目が明らかになった。	B	・子供たちの意欲的な学習につなげるためにも、楽しみながら学習できるようなゲーム的要素をもった活動を行う等の工夫が必要である。 ・子供に考えさせる指導(問題を作らせるなど)を取り入れ主体的に考える子供に育ててほしい。 ・家庭の協力も必要だ。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・各学期に1単元以上、図書館やiPadを活用した探究的な学習の実施。 ・読書科校内OJT研修1回 ・学校応援団、図書館司書と連携した図書館整備と読み聞かせの実施	・児童アンケートで「読書や調べ学習が好き」についての肯定的回答が90%以上 ・図書館を使った調べ学習コンクールへの参加数の増加	B	B	・児童アンケートでは、79%の肯定的評価を得た。 ・読書科の校内ミニ研修を実施。調べ学習、探究的な学習の取組を実施した。 ・夏休みに調べ学習に取り組んだ作品が多く見られた。 ・外部と連携し、読み聞かせを実施し、図書館司書の授業補佐や采づくり教室の開催なども実施し、図書館の活用が増加した。	B	・子供が読書に興味をもち、自ら良書を選ぶことができるようになるとい。・デジタル化により、本離れが進んでいると感じる。家庭や外部機関との連携を図ることも大切だと思う。 ・図書ボランティアの方の読み聞かせだけでなく、子供の側から「読み聞かせをしてみたい」という声が出てくるといい。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・運動意欲や基礎体力の向上に向けた取組の実施・充実	・休み時間を活用した運動遊び「元氣っスタイム」を週1回実施 ・体育の授業の中での春江運動の実施 ・冬場に行う風の子運動(短縄、長縄、持久走)の実施	・児童アンケートで「運動が好き」についての肯定的回答が90%以上	B	B	・児童アンケートでは、85%の肯定的評価を得た。 ・「元氣っスタイム」計画通り実施した。各学年の発達段階を踏まえた内容に取り組んでいる。 ・体力テストの結果を分析し、課題を明らかにした上で向上への取組を実行する。 ・春江運動を授業に取り入れ、運動意欲の向上を図った。	B	・今年の夏は酷暑で、炎天下の中で運動をすることができず、体力低下も仕方ないところがある。 ・朝食食事をしっかりと取っていることは大事。 ・「風の子運動」時の持久走の取組を通して体力をつける。
共生社会の実現 に向けた教育の 推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・校内委員会を月1回以上開き、個に応じた指導、支援体制の整備 ・教員向け研修の実施 ・個別対応ができるエンカレッジルームの計画的運営 ・副籍交流および共同学習の設定 ・通常学級と特別支援学級の交流や児童への理解教育を実施	・児童アンケートで「授業の内容がわかる」についての肯定的回答が90%以上 ・復籍交流および共同学習を年3回実施	B	B	・校内委員会を月に1回開催し、支援体制の整備を図っている。 ・特別支援学級主任教諭による校内特別支援教育研修会を実施し、対応や指導について研修した。 ・様々な個別対応のため、エンカレッジルームを有効に活用している。 ・授業における交流は適宜実施している。見通しをもった交流活動を実施するため、各学年の年間計画に各自位置付けることが課題である。 ・児童への理解教育は2学期に実施予定である。	B	・学校生活でたてわりでの異学年交流や、通常学級と特別支援学級との交流が行われていることは、とてもよいことである。学校外で異学年で遊ぶことが少なくなっている現在、交流活動は有意義である。
子どもたちの健全 育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	・年3回児童アンケートの実施による、いじめの未然防止・早期発見 ・いじめ防止に特化した授業の年3回以上実施 ・いじめ防止対策委員会の設置 ・スクールカウンセラー、SSWとの連携による不登校の防止、改善	・児童アンケートで「学校が好き・楽しい」についての肯定的回答が90%以上	B	B	・児童アンケートでは、85%の肯定的評価を得た。 ・いじめ防止に関する授業の実施と、教員研修会を実施した。 ・いじめアンケートを実施し、指導に生かしている。	B	・いじめは漠然として、実施を掴みにくい。また、いじめと感じる度合いに関しても、個人差があり難しい。 ・いじめを受けた子は、そのことを大人になってもずっと覚えている。早期発見・早期解決を図ることが大切である。 ・見守りの人に挨拶ができる子供がいて気持ちがいい。お辞儀をして挨拶してくれる子供もいる。
地域に広く開か れた学校(園)の 実現	＜自校(園)の取組の積極的な発信＞ ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・教育活動について、学校ホームページへの公開 ・学校公開(土曜授業)の年4回実施、学校説明会(来年度入学予定者向け)の実施	保護者アンケートの項目で、肯定的評価80%以上	B	B	・教育活動の紹介を学校ホームページに公開している。 ・学校公開は年間4回中1学期に1回2日間と新1年生向け学校説明会を実施した。見学者も随時実施した。	B	・学校公開や行事等を通して、学校の様子を知ることができる。 ・アンケートの結果を踏まえ、教育活動にいかして欲しい。 ・地域のお祭り等で、学校として児童の参加を促してもらい感謝している。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会を年3回開き、意見交換する。 ・2学期末に保護者、地域に向けて教育活動についてアンケートを実施及び分析、改善を行う。	保護者アンケートの各項目で、「わからない」という回答が前年度より減少	B	B	・学校評議員会を2回開催し、ご意見をいただいた。	A	・学校と地域の連携や意見交流の場としても、学校評議員会の実施は有意義である。
特色ある教育の 展開	＜学校における働き方改革プラン＞ 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・スクールサポートスタッフ(SSS)、副校長補佐の活用を促進する。 ・定時退勤日の実施	教員向けアンケートで肯定的評価80%以上	B	B	・SSS、副校長補佐の活用ができているが、在校時間が長い教員がいるので改善を続ける。 ・電話対応時間を勤務時間内とした。	B	・学校も忙しいが、児童も忙しくなっていると感じる。
	＜小中連携教育の推進＞ 小中連携教育構想及び児童生徒間の交流の推進	・教員間の交流年1回実施する。部活動体験や体験学習の実施	児童アンケートで中学進学に関する項目で肯定的回答が90%以上	B	B	・中学校の部活動体験と体験学習を実施した。	B	・春江小学校の授業を近隣小学校、中学校の教員に公開し、交流を通して中連携教育の推進を図る。